

■斎藤龍興 戦国大名。斎藤道三の孫ながら、凡庸で、酒色に溺れ、家臣竹中半兵衛に居城を乗っ取られ、信長に滅ぼされた。

さいとう たつおき
上杉謙信登場1548＝ 下克上で美濃国主となり、織田信長の義父にもなった斎藤道三の子ながら、対立した父を討った斎藤義龍の子に生まれる。母の近江の方は、浅井家初代亮政(長政の祖父)の娘であるという説が有力である。

ザビエル来日1549＝ 1歳： 祖父・父と違って、凡庸で、

・ ・ ・ ・ ・ 1557＝ 9歳： 祖父の代から、主に織田家の引抜きかれて、有力家臣が流出し、信長による美濃攻めが続くなか、

川中島最激戦1561＝13歳： *父が急死して、美濃斎藤氏の家督を継ぐが、精神的に耐えられず、酒色に溺れ始めた上、祖父の代からの美濃三人衆らを退けて、評判の悪い斎藤飛騨守を重用、家中の統制は失われ、森部の戦いでは、戦いそのものには勝利したものの、重臣の日比野清実、長井衛安らを失い、

純忠長崎開港1562＝14歳： 有力家臣の郡上八幡城主の遠藤盛数が病没して、斎藤家は一気に衰弱、信長の侵攻に対処すべく、浅井長政と同盟を結ぼうとするも、信長に機先を制されて、逆に、長政が美濃に侵攻するようになり、

大村純忠受洗1563＝15歳： こういった状況をチャンスととらえた_信長と新加納で戦うことになって、名軍師とされる家臣竹中半兵衛の活躍で勝利したが、見た目に優しい半兵衛を重用せず、斎藤飛騨守が無礼な行動をとったため、

川中島の戦終1564＝16歳： 怒った半兵衛に、美濃三人衆の一人安藤守就も加担して、飛騨守が暗殺され、自らも追放されて、居城の稲葉山城を乗っ取られる。半兵衛らからは、諫めるためにしたことと、城が返還され、領主として復帰したものの、内情が露わになって、評判は一気に下落、有力領主らが次々と、信長に通じるようになり、

將軍義輝自刃1565＝17歳： この年、代初の儀について太刀一腰と馬一疋を祝言に贈った足利將軍家一色藤長との関係で、一色姓を名乗り、一色式部大輔とも呼ばれる。織田家に降った加治田城主佐藤忠能により、堂洞城主の岸信周が討たれ、大叔父の長井道利も織田家の武将となっていた斎藤利治に敗れ、中濃地方も信長の勢力圏に入り、

・ ・ ・ ・ ・ 1566＝18歳： ついに、美濃三人衆も信長に内応したため、*ついに、信長に、稲葉山城を落とされ、北伊勢の長島へと退散、信長と対立する長島一向一揆に参加し、まもなく、畿内へ移って、本願寺の頭如と連携、

織田信長入京1568＝20歳： 三好三人衆と結託し、信長が擁立した將軍足利義昭を攻め殺そうとして、敗退。_信長が朝倉・浅井連合軍に脅かされて退却するまで持ちこたえ、越前国の朝倉義景の下で、いわゆる客将として遇されたという。

京都宣教許可1569＝21歳： 頭如から、一色式部大輔すなわち龍興宛てに、”御本意”実現を願う書状と、黄金と太刀を贈られる。

比叡山焼討・1571＝23歳： 越前一向一揆の支援を受け、長島一向一揆の支援を受けた日根野弘就と、美濃を挟撃する計画が立てられるも、実行に至らず、

三方原の戦・1572＝24歳： *浅井長政を支援すべく、近江国北部に出陣した朝倉軍に従軍、織田軍に敗れて追撃されるなか、戦死した(刀禰坂の戦い)。かつての排除した美濃三人衆の一人氏家直元の嫡男直昌に斬られたともいわれる。

室町幕府滅亡1573＝25歳： 本願寺勢力と結びつき、越中国新川郡布市村に来て、九右エ門と改名して、付近の原野を開拓後、興国寺で出家、住持となり、1632年(84歳)に没したとか、石山本願寺に逃れた後、現在の岐阜県羽島市足近町の寺で病死したなどの生存説がある。畿内在住時、キリシタンを目指し、ルイス・フロイスの説教を理解して'非常に有能で思慮深い'と記され、ガスパル・ヴィレラには論理的な疑問を呈したというから、凡庸とは言いい切れないかもしれない。